

市民の声

＝市民の声募集中＝

市政に思う

今回は地域おこし協力隊の皆さんに市民の声をお願いしました。市民の声を募集しています。
《問い合わせ先》 議会広報特別委員会 ☎42-6310

江田島の シビックプライド

地域おこし協力隊
移住促進支援員
後藤 峻



東京から江田島市に越してきて2年半がたちました。車があれば買い物や病院など日々の生活に困ることはないし、毎日海を眺めたり、夕日に感動したり、島の人たちと顔の見えるお付き合いもでき、予想以上に快適な暮らしを送っています。

か、要因はいろいろです。昨年、市内の中学校で話をする機会をいただいたとき、将来どうしたいか？という問いに対し「島に残りたい」と答えた生徒は31人中0人でした。みなさんはこの結果についてどう感じますか？

に言うと「地域に対する市民の誇り」です。19世紀のイギリスで生まれたこの概念は、今の江田島市にとっても非常に重要なキーワードだと考えています。

島の良さわかるとるじやん。子どもたちはちゃんと自分たちなりの「シビックプライド」を持っているのです。明るい未来ある子どもたちが島を出ていくことを嘆くよりも、大人たちがこの島の誇りを自覚し、生き生きとした姿を子どもたちに伝えていくことが大事なのではないでしょうか。

ブランド請負人の 活動について

地域おこし協力隊
ブランド請負人
永田 秀平



江田島市地域おこし協力隊に就任して1年半が経過しました。私のミッションは、主に特産品に関わるものごとについてです。江田島市は「恵み多き島」と言われるように、農産物から海産物、工芸品に至るまで多くの地域資源に恵まれていると感じています。

た方法で、外に向けて見せていくのか、というアウトプットの点においては、まだまだ改善の必要性があると感じています。知ってもらえれば、とても良いと感じられる物も、そもそも知ってもらえなければ、その魅力は伝わりません。

既存の特産品だけではなく、新たに認定された特産品が、えたじまブランドを通じて、多くの方に知っていただき、江田島のことを好きになってもらえるような展開や施策を行っていく予定です。

しての1年半の活動で培ったこと、江田島市民の一人として自分にできることを積み重ねていきたいと思っています。

地域のがえたじまん (島の自慢)

地域おこし協力隊
オリープ普及員
西村 京子



江田島市に移住して間もない頃、市の魅力が聞かれると「きれいな海」「夕日」「人の温かさ」の3つを答えていました。暮らして2年半たった今も変わらず大好きなところです。通勤途中の沖美町の海岸線、日々表情を変え海の色に朝の活力をもたらしています。

の日の疲れを癒してもらっています。そして、3つ目の「人の温かさ」。もちろん常に感じていますが、今年の豪雨災害の時には、改めて強く実感しました。

顔を合わせて、近況を報告しあったり・・・まさに井戸端会議です。助け合い分かち合う。人の温かさとながら、絆、地域の底力を感じました。

オリープラー(10月6日～12月16日)を開催中です。協賛店を回って、オリープオイルを味わってください。栽培していない方も、ぜひオリープの輪に加わっていただき、一緒に盛り上げてくださいます。

観光の充実が島をもっと豊かにすると信じて

地域おこし協力隊
オリープ栽培技術指導員
峰尾 亮平



江田島市に移住して2年半が経ちました。目の前に海、後ろを見れば山という素晴らしい自然環境のなかで島暮らしを楽しんでいます。豊かな自然の中でオリープを育てる。移住前、まだ神奈川に暮らしていた時にイメージしていた暮らしが、少しずつ少しずつ形になってきました。

でも好きになりました。だからこそ、この島と、そこで暮らす人たちが、これからも幸せであってほしいなと願っています。観光産業。江田島市において、もっとも伸びてほしい部分です。

ます。飲食店や宿泊施設が維持される、そこで働く雇用が生まれる、お土産が売れる、産産が活気づく、島に「移住したい」とやってくる人たちの仕事ができる、島で育った子供たちの島内での就職の可能性が広がる、航路が維持される、バスなどの交通機関が充実する、などが考えられます。

の魅力だけでなく、観光産業としての魅力もあります。オリープの飲食店やお土産屋で観光客を、収穫や農業体験で交流人口を生み出すことができます。